



精神科医
瀬戸 睿

前回、前々回でアメリカが移民国家であり、合衆国となつてからも他民族を殺戮、排除し大きくなつていった経緯を書いた。今回も帝国主義国家となり、現在に至るまでの残虐極まりない歴史を書いてみよう。

モンロー主義をとつて今のトランプのように自国第一主義となり、インディアンを制圧したアメリカは帝国主義(1890年代以降)になると周

辺他国の制圧に向かった。メキシコから南米諸国へ向かい、ハワイを落とし、東南アジアにまで行きグアムなどを植民地化した。そうこうしている間に第一次世界大戦、アメリカは中立をとっていたが、戦況を見て連合

国側につき、戦場とならなかつたアメリカは疲弊したヨーロッパに経済的援助と称して物資を送り、戦争特需で潤い、ドイツにはワイマール憲法を押し付け、世界のトップに立った。しかし、アメリカ国内は労働運動が活発となり、ソ連が共産主義革命に成功したこともあり、労働者への弾圧

を強めるためにFBIを創設させて、国内の左翼化を防いだ。

一方、次の目標は中国の制圧に向けられた。しかし、1929年に突如世界大恐慌が吹き荒れ、国内の労働運動が活発となり、共産化を防ぐという口実で弾圧し押さえ込んだ。ドイツにはヒトラーが登場し、第一次世界大戦で受けたダメージを回復すべく、ナチスによって国内を統一し、フランス、イギリス等と戦うことになった。第二次世界大戦である。アメリカは、これまた中立を装い

当初は参戦せず、ナチスとも貿易をし、東南アジア、中国への進出も考えていた。日本の真珠湾攻撃を機に連合軍に加わ

り、日本に焼夷弾と原爆を使い一般市民を虐殺した。大戦後アメリカは、日本を半植民地化した現在まで続け(日米安保条約)、朝鮮、ベトナム、イラク、アフガニスタンと戦争を続ける軍産複合体となり、今後もそれを続けていく。日本は独立国として認められながら、日本安保条約で安倍傀儡政権を通してアメリカの属国となった。

本来の日本のあるべき姿は経済的従属をなくし、憲法九条第2項を守り軍備撤廃し、今こそ真の独立国となることである。そうすれば、必ずやアメリカの軍産複合体世界戦略を打ち破ることができる。その方向を目指すべきである。

